

はじめての 海外文学

Vol. 7

ちょっと
背伸び
篇

Take Free



ー ナジャ ー

アンドレ・ブルトン著／巖谷国土訳 岩波文庫 840円+税
「作者の言いたいこと」や「主題」を求めるのだけが読書ではない。
想像力に身をゆだね、心の奥底にある感情を震わせる、そういう読み方もあるはず。
とくに『ナジャ』のような本のページをめくるときには、
阿部賢一 東欧文学者・東京大学大学院准教授

ー バライソ・トラベル ー

ホルヘ・フランコ著／田村さと子訳 河出書房新社 2200円+税
合衆国に不法入国したコロンビア人の浪人生マーロンは、つれだってきた恋人のレイナとニューヨークではぐれてしまう。
英語も話せない一文無しの彼はどうなる？ 愛を求めるハラハラドキドキの旅を一緒に！
宇野和美 スペイン児童文学翻訳家

ー ヘルプ 心がつなぐストーリー 上下 ー

キャスリン・ストケット著／栗原百代訳 集英社文庫 686円/648円+税
不当解雇された黒人女性たちの力強い抵抗の物語——という
と重苦しい作品を想像しがちですが、これはユーモア満載で
一気読み確実、元気が出ます。
人の心にひそむ差別の問題についても考えさせてくれる快作
です。
越前敏弥 英米文学翻訳家

突然何かを好きになるキッカケって何でしょう？

18歳までに読んだ本が児童書3冊！という書店員としては珍獣的な過去の持ち主の私が海外文学を好きになったキッカケは、私のことをよく知っている立教大学の教授に『画伯みたいにブッ飛んだヤツは絶対この本が好きだ!!』と、読む前から盛大に拒否反応が炸裂した岩波文庫の“巨匠とマルガリータ 上下ブルガーコフ著／水野忠夫訳”を若干余計な一言とともにオススメされたのがはじまりでした。

本当に面白かったんです。
あれから1年。もう拒否反応は出ません(笑)
なんてアッサリしたキッカケなんでしょう。

そう、きっと好きになるキッカケなんて簡単なこと。
本当はこういう自分の好みをよく知っていて『おまえにはコレだー！』とオススメしてくれる人がみなさまの周りにも居ればいいのです。でもなかなかいないですよ。
だったらこのフェアがお客様にとってそんな存在になれないかしら？と思いました。

コチラはもう少し難しいものにチャレンジしてみたい！という方向けの“ちょっと背伸び篇”

選書は海外文学のプロフェッショナル“翻訳家”
面白さはお墨付きです。
推薦文をよーく読んでジックリ読むことをオススメします。

セントホー・ルッソサ書籍店

ごんすけのかいぬし。

ー <グレン・キャリグ号>のポート ー

ウィリアム・ホープ・ホジスン著／野村芳夫訳 書苑新社 2100円+税
怪奇幻想小説のココロは雰囲気づくり。お手本のような傑作が本書だ。
『パイレーツ・オブ・カリビアン』の延長で楽しめる。
あのラヴクラフトも大絶賛、元ネタにした。
サルガッソー海に潜む怪異に戦慄せよ！
岡和田晃 翻訳家／文芸評論家／SF評論家

ー 歌うダイヤモンド ー

ヘレン・マクロイ著／好野理恵他訳 創元推理文庫 1160円+税
長篇の人気キャラクター、精神科医探偵ウィリング博士が登場する本格ミステリのほか、SF、サスペンス、ブラックユーモアなど多彩な魅力が詰まった中・短篇集。
美しく神秘的な独特の味わいが癖になります。
駒月雅子 英米文学翻訳家

ー フランケンシュタイン ー

メアリ・シェリー著／森下弓子訳 創元推理文庫 740円+税
フランケンシュタイン博士が造ったフランケンシュタイン・モンスターは、「人造人間」とか「怪物」とか言われたりするわけですが、頼みもしないのに生まれさせられて、生まれたら生まれたで「お前は××だ」と人から勝手に決めつけられるのですから、つまりは人間そのものなのです。
創元推理文庫版は訳も解説もよいので、この版で読んでください。

柴田元幸 アメリカ文学研究家／『MONKEY』編集長



— (呐喊) 阿Q正伝・狂人日記 —

鲁迅著／竹内好訳 岩波文庫 680円+税
しみじみとした悲哀を残す短編集。最初の「狂人日記」が
取っつきにくければ、「藥」か「故郷」あたりからどうぞ。
最後は「自序」を読んで、「呐喊(とっかん)」という題名
の由来もぜひ味わってみてください。

鈴木恵 英米文学翻訳家

— 失われた時を求めて 1 —

ブルースト著／高遠弘美訳 光文社古典新訳文庫 952円+税
『源氏物語』より長い小説です。挫折した人も少なくありま
せん。でもそれは、ストーリーばかり追うからではないで
しょうか。ゆっくり読めばこの小説の豊かさが見えてきます。
そこに広がるのは豊穡な言葉の世界です。

高遠弘美 フランス文学者／明治大学教授

— 1ドルの価値/賢者の贈り物 —

O. ヘンリー著／芹沢恵訳 光文社古典新訳文庫 720円+税
本を読んでびっくりもしたければ、ほっともしたい。そんな
人になによりお勧めです。

意外性と温かさ。このふたつがぎっしりと詰まった一冊です。
田口俊樹 英米文学翻訳家

— 囀る魚 —

アンドレアス・セシェ著／酒寄進一訳 西村書店 1500円+税
舞台はギリシア。文学好きの若者が不思議な本屋に迷い込む
ことから始まるファンタジックで、ミステリアスな物語。
古今東西の本の蘊蓄が満載で、この物語から他のいろんな海
外文学への扉が開かれるだろう。

遠山明子 ドイツ文学翻訳家

— はるかな星 —

ロベルト・ボラーニョ／斎藤文子訳 白水社 1900円+税
誰にでも青春はある。とうに忘れたはずの時代が、ボラー
ニョを読むと蘇る。チリやメキシコ、スペインに生きて50
歳で死んだ男が、なぜここまで僕の胸を搔きむしるのか。答
えは簡単だ。彼が世界最高の作家だからだ。

都甲幸治 アメリカ文学研究者／早稲田大学教授

— コドモノセカイ —

岸本佐知子／編訳 河出書房新社 1900円+税
素晴らしいアンソロジーです。岸本佐知子さんの選択眼のよ
さにおおとなり、訳文におおとなります。風変わりな話
が多く、読後感もおお、なのです。

西崎憲 小説家／翻訳家／日本翻訳大賞選考委員

— ガラバゴスの箱舟 —

カート・ヴォネガット著／浅倉久志訳 ハヤカワSF文庫 860円+税
巨大脳のせいで旧人類が滅亡する話。
舞台は1986年ですが、これは2016年の話かも。日本人も
出てきます。「できるだけたくさん人間活動を機械に譲り
わたそうとしたあの謎の熱狂」——スマホ依存のあなたも読
んでみて!

野口百合子 英米文学翻訳家

— ヘビトンボの季節に自殺した五人姉妹 —

ジェフリー・ユージェニ德斯著／佐々田雅子訳 早川lepi文庫 780円+税
あそこ、ほくらがいつも憧れていた美人姉妹は、次々に死
を選んでしまった…。
青春時代の切ない思い出を振り返る物語のどこかに、見知ら
ぬ闇がそっと忍び寄る、そんな絶妙な感覚を味わえる小説で
す。

藤井光 英文学者／同志社大学准教授

— 紙の動物園 —

ケン・リュウ著／古沢嘉通訳 新☆ハヤカワ・SF・シリーズ 1900円+税
今、世界でもっとも注目されている中国系SF作家の本邦初
作品集。滂沱必至の感動作から、知的好奇心をくすぐる最先
端SFまで、バラエティ豊かな十五篇。読みやすさとわかり
やすさは、編訳者の私が保証します!

古沢嘉通 英米SF・ミステリ翻訳家

— ロリーター —

ウラジーミル・ナボコフ著／若島正訳 新潮文庫 890円+税
「ロリーター・コンプレックス」の由来となった小説で、ナボ
コフの代表作。冒頭の文章を読めば、たいていの人はノック
アウト。語り手の描く少女ロリーターの姿が非常に悪魔的。女
性蔑視との批判を受けたりもしたが、とにかくこの饒舌文体
がすごい。

古屋美登里 英米文学翻訳家／エッセイスト

— 七人の使者/神を見た犬 —

ブツァーティ著／脇功訳 岩波文庫 800円+税
20世紀のイタリア文学はどうでしょう。『六十物語』とい
う自選短篇集から15篇を訳出したものです。
幻想的なお話もあれば、不条理なお話もありますが、どれも
語り口が独特で、何回読んでも飽きません(少なくとも、わ
たしは)。
とにかく、最初の「七人の使者」を読んでみましょう。ブツ
ツァーティの短篇が気に入ったら、長篇『タートル人の砂
漠』(岩波文庫)にも挑戦してください。

宮下志朗 フランス文学者／放送大学教授

すきな本との出逢いがありますように!

Twitter: @kaigaibungaku

↑ コツクもチェックしてね!

